

キャリア教育 中学生から

横須賀市 「地元の人材」育成期待

横須賀市では、地元の産業界と学校、行政が手を携えて中学生対象のキャリア教育を実施している。全国的にも珍しい取り組みで、1月には文部科学省などが定める「キャリア教育推進連携表彰」の最優秀賞も受賞した。関係者は「すぐに成果が出る訳ではないが、将来、役立ててもらえれば」と期待を寄せている。

(松崎美保)



2月上旬、市立馬堀中学校(同市馬堀町)の体育館で、1年生110人がビジネスマナーの研修を受講していた。

「名刺はその人の顔です。丁寧に扱ってください」。市のマナー講師、千葉理恵子さん(50)が声をかけながら、男子生徒はぎこちないながらも名刺を受け取った。「片手で失礼します」。

講師の指導を受けながら名刺交換の実習に取り組む1年生たち(横須賀市立馬堀中)



頂戴致します。この日は、お辞儀の仕方から名刺交換、電話応対、飲食店での接客を想定したクイズ対応まで、2時間かけて実習に取り組んだ。

研修は、市の商工会議所が中心に行う「よこすかキャリア教育推進事業」の一環。市の試算で、2025年に市内人口が約42万人から約37万人に減少すると見られており、労働力の減少や流出が不安視されている。そのため、地元の人材とその就業先を育てようと、市と市教委、商工会議所が08年に事業をスタートさせた。現在、市立中学校全23校のうち11校を対象に行われ、367社が協力している。

教育方針を基にプログラムを企画し、学校側が考えた計画の実現に向けて助言や調整をするなどして、コーディネーター役を担当する一方、横須賀で働く大人を「全て子供たちの先生」と位置づけ、銀行員や美容師など435人(11年実績)を「MTT(マイタウンティーチャー)」として各校に派遣している。

文科省と経済産業省は1月、「学校における体系的なキャリア教育を実現している」と評価し、「キャリア教育推進連携表彰」の最優秀賞を授与した。

馬堀中では、1年生を対象に事業のプログラムを取り入れ、同級生同士で性格などを分析し合い、第三者の目から「自分自身」を見つめ直す。その後、地元企業と協力して、イベントや特産品の企画など地域活性化事業に取り組んでいる。

2年生の6月には、ホテルや会計事務所、医療施設など市内の約50社で4日間の職業体験に参加する。

1年生の大木美幸さん(13)は「人の役に立てるようになりたいという思いが、活動を通して強くなった」と話し、同、高橋拓海君(12)も「社会に関わることへの意識が深まった」と話していた。

阿部信行校長(56)は「自立した社会人になるには、子供の頃からその年齢なりに、生き方や将来を考えることが大事。大学生になって初めて考えるのでは遅い」と事業の意義を強調した。

同事業事務局の佐藤広さん(40)は、「小さくて無名でも頑張っている地元企業や大人と出会うことで魅力を見いだし、いずれ地元で就職してもらいたい」と期待を込めた。